

# 大鹿村中央構造線博物館たより 149号



2021年10月発行

TEL: (0265) 39-2205  
staff69@mtl-muse.com

## 大鹿村の自然災害伝承碑

全国各地には、自然災害伝承碑というものが建てられています。これは、先人が、かつて自然災害に見舞われたことを後世の人々に残すために、そのときの様子や教訓を石碑やモニュメントに刻んだものです。しかしながら、その情報が後世の人々に十分に伝わっているとは言い難い実情があります。そこで、国土交通省国土地理院では、地形図に新たな地図記号「自然災害伝承碑」を掲載する取り組みを2019年から始めたそうです（図1）。



図1 国土地理院の地図記号 左が「記念碑」、右が「自然災害伝承碑」  
縦線は、碑文を表しているそうです。

今年の6月25日には、大鹿村の3つの「自然災害伝承碑」が国土地理院のウェブ地図「地理院地図」に、掲載されることとなりました。紙製の2万5千分の1地形図にも掲載されるそうです。今回掲載が決まった3つの碑は、いずれも三六災害に関するもので、役場前の復興記念碑（1965年建立）の、大西公園の殉難之碑（1965年建立）、北川集落の災害復興記念碑（1964年建立）の3つです。



ウェブ地図「地理院地図」（URL: <https://maps.gsi.go.jp/>）を開き、自然災害伝承碑（土砂災害）を表示対象に追加、大鹿村周辺の地図を拡大表示すると、該当場所に自然災害伝承碑の地図記号が表示されます。クリックすると、自然災害伝承碑の伝承内容などもわかるようになっていますので、スマートフォン等をお持ちの方は、是非ご覧になってみてください。（左のQRコードからもアクセスできます。）

## 電動レンタサイクルで自然災害伝承碑を巡る！

道端の石碑などを見て回るには、自動車でも良いのですが、ちょっとスピードが速くて通り過ぎてしまいがちなので、自転車を利用するのもオススメです。今回は、大鹿村観光協会が貸し出している電動レンタサイクルを利用して、前述の3か所の自然災害伝承碑を巡ってみることにしました。経路自体は、博物館たより137号に掲載した北川露頭までとほぼ同じです。

国道152号線を役場の前から、分杭峠に向かっていくと、鹿塩市場のあたりでは国道の西側を鹿塩川が流れています。ぐんぐん北上して民家もなくなった頃、北川橋という名前の橋を渡って川を渡ります。この橋を渡って少しいったところに北川集落の災害復興記念碑があります（写真1）。木々に覆われて、目立たなくなっていますが、近づいてみると、綺麗な模様の緑色片岩でできている巨大な石碑でした。なお、北川橋より少し手前には、三六災害時に流された橋の一部が残っていますので併せて立ち寄ってみても良さそうです（写真2）。

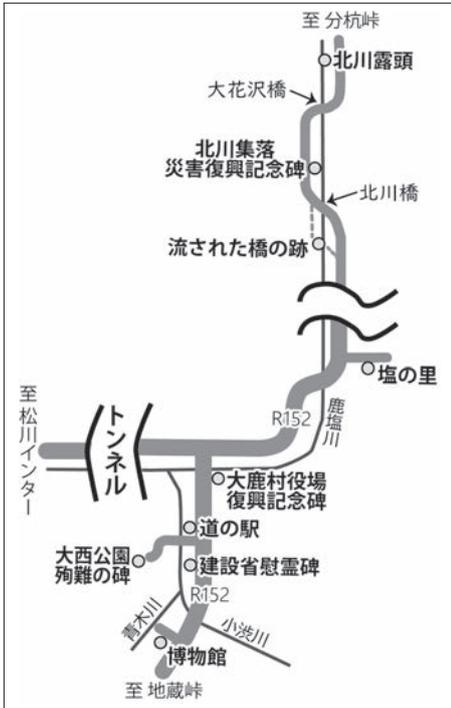


写真1  
北川集落災害復興記念碑



写真2  
三六災害時に流された橋の一部

図2  
大鹿村の自然災害伝承碑の位置

次に大鹿村役場前の復興記念碑に立ち寄りました(写真3)。これまで役場には何度も行く機会がありましたが、この石碑の前に来たのは初めてでした。石碑は看板と違って、近づいてみないと、何の石碑かがわからないため、注目を集めにくいように思いました。



写真3  
役場前の復興記念碑

最後に大西公園の殉難の碑に立ち寄りました(写真4)。観音様のところに上る階段の途中にあります。今年8月に大西山の一部が崩落したため、しばらくの間、大西公園は入園禁止となっていました。幸いその後は落ち着いており、この日は石碑の前まで行くことができました。



写真4  
大西公園の殉難の碑

これら3つの自然災害伝承碑は、いずれも裏側にも文字が彫ってありましたが、岩石の風化のためか、表面を苔のようなものが覆っているからか、読むことが難しい状態でした。これでは、先人の思いが後世に十分に伝わらないので、今回、国土地理院の地形図に自然災害伝承碑の情報が掲載されるようになったことは、大変意義のあることとしました。

なお、上記3か所の他に、村内には、建設省の慰霊碑があります(写真5)。こちらは柱がコンクリート製で、大変凝った作りになっています。中央部分に大きく文字が書かれています。凝った字体のため解読できません。しかし、隣に説明を記した石碑が別途用意されていたので文字とその意味がやっとわかりました(写真6)。(宮崎)



写真5  
建設省慰霊碑



写真6  
建設省慰霊碑と碑文のいわれの説明